

令和5年度 大田区立馬込第二小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

本校は、児童数452名(令和5年5月1日現在)、通常学級15学級、特別支援学級(若竹学級)3学級の小規模の小学校である。環状七号線の外側に少し入った閑静な住宅地の中に学校がある。保護者や地域の方々には学校に協力であり、温かい雰囲気の中での支援に支えられて学校教育を推進することができている。今年度は、教育目標の重点目標を「心豊かで思いやりのある子」として、教育活動をすすめている。校内研究では、「共に学び、互いに高め合う児童の育成」を掲げ、国語科を通して、「自分と相手の考えを比べながら、考えを深めることができる児童」を、目指す児童像として研究を進める。タブレット端末一人一台の学習環境を効果的に生かすためのICT機器の活用、スキルの習得を重点の一つとする。そのため、教員一人ひとりがICT機器を効果的に活用できるように、校内体制を整備、改善する。また、学校支援地域本部の協力を仰ぎ、緑のボランティア「こうまクラブ」の読み聞かせなど学校の内外において地域との密接な関係をこれまで以上に築き、昨年度以上に児童(保護者)・地域・学校が生きていくことができる環境づくりを目指す。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	学校関係者記入欄 評価 人数
ブラン 1 未来社会 育を創造 的に生 きる子 供の	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもたちの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4.「おかわりできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上が回答した。 1.60%未満であった。	4	児童の自己評価において、「あいさつをきちんとすることができた。」と答えた児童の割合	4: 90%以上	A 5
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を主とした体験活動や理数授業等を実施する。	4.全教員が行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	3		3: 80%以上	B 1
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4.80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3.70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2.60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1.60%未満であった。	3.5		2: 70%以上	C
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4.対象となる全学級(全教員)で行った。 3.80%以上で行った。 2.60%以上で行った。 1.60%未満であった。	4		1: 70%未満	D
ブラン 2 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習効果測定の結果を基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者へ知らせる。	4.対象となる全学級(全教員)で行った。 3.80%以上で行った。 2.60%以上で行った。 1.60%未満であった。	3.8	児童の自己評価において、「授業の内容を理解することができた。」と答えた児童の割合	4: 90%以上	A 4
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4.学期に2~3回知らせた。 3.学期毎に知らせた。 2.年度間に1回は知らせた。 1.お知らせできなかった。	3.2		3: 80%以上	B 2
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4.対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3.80%以上の教員が働きかけた。 2.60%以上の教員が働きかけた。 1.60%未満であった。	4		2: 70%以上	C
		知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成に向けた指導計画を立て、児童の意欲を高める授業づくりをする。	4.「おかわりできた」と全教員が回答した。 3.80%以上が回答した。 2.60%以上が回答した。 1.60%未満であった。	3.8		1: 70%未満	D
ブラン 3 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を育てます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4.全教員が行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	3.8	保護者のアンケートにおいて、「思いやりの心が育ってきている。」と答えた保護者の割合	4: 90%以上	A 5
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4.学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3.学期に1回(年間3回)以上行った。 2.年度間に1回以上行った。 1.実施しなかった。	2.7		3: 80%以上	B
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4.「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	4		2: 70%以上	C
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議を実施する。	4.「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	4		1: 70%未満	D
ブラン 4 スポーツに親しむ心や運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4.全教員が行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4	児童の自己評価において、「運動をしたり、体を動かしたりすることが好きだ。」と回答した児童の割合	4: 90%以上	A 1
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4		3: 80%以上	B 3
		日常的に体を動かす場を設定し、学校独自の取り組み(馬二タイム)を計画・推進して、運動好きの児童を育てる。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4		2: 70%以上	C 1
		授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4.「おかわりできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	4		1: 70%未満	D
ブラン 5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教師が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4.学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3.学期に1回(年間3回)以上行った。 2.年度間に1回以上行った。 1.実施しなかった。	4	保護者のアンケートにおいて、「児童が進んで学習に取り組むための環境を考え、工夫・改善を図っている」と答えた保護者の割合	4: 90%以上	A 3
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4.「おかわりできた」と全教員が回答した。 3.80%以上の教員が回答した。 2.60%以上の教員が回答した。 1.60%未満であった。	4		3: 80%以上	B 2
		校内委員会等を確実実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4.月1回以上行った。 3.学期に2~3回以上行った。 2.学期1回以上行った。 1.実施しなかった。	3.7		2: 70%以上	C
		校内研究を通して、「共に学び、互いに高め合う児童の育成」を目指した授業を実施する。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	4		1: 70%未満	D
ブラン 6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作りまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報(児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開)及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4.1回以上更新した。 3.学期に2~3回更新した。 2.学期1回以上更新した。 1.更新しなかった。	4	保護者のアンケートにおいて、「学校は、地域の方を子どもたちの教育活動に活かしている」と答えた保護者の割合	4: 90%以上	A 4
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4.毎回情報を提供した。 3.おたのび情報を提供した。 2.あまり情報を提供しなかった。 1.情報を提供しなかった。	3.3		3: 80%以上	B 1
		保護者・地域の読み聞かせボランティアサークル「こうまクラブ」と連携し、児童の読書活動を推進する。	4.学期に2~3回以上行った。 3.学期1回以上行った。 2.年1回以上行った。 1.実施しなかった。	2.7		2: 70%以上	C
		学習や学校行事において保護者に協力を求め、協働して学校教育を推進する。	4.全教員で行った。 3.80%以上の教員が行った。 2.60%以上の教員が行った。 1.60%未満であった。	3.6		1: 70%未満	D

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について